

今信長の御座安土山へも程遠からねば、かぶり仕るに煩なし、此所にすまむとて、堀をふかくし石ぐらを打まはし、とのつくりしてうづり給ひぬ。今濱のなを改めて長濱となん。

君が代も我よもともに長濱の眞砂の敷のつきやらぬまで、たれ人のよみしといふことも忘れにけり。

避諱

〔藝藩通志六
安藝國廣島府〕疆域形勢

廣島府は地安藝廣島二郡に亘る。大抵京橋川より東は安藝郡、西は沼田郡なり。舊稱五箇庄、略中其廣島と名けしは、その地廣く四方水にて繞れるを以なるべし。俗傳る說あれども今取らず。

〔日本後紀十
平城〕大同元年七月戊戌、改紀伊國安謫郡爲在田郡。以詞涉天皇諱（○平城）也。

〔日本紀略嵯峨〕大同四年九月乙巳、改伊豫國神野郡爲新居郡。以觸上諱（○嵯峨諱）也。

〔續日本後紀仁明〕天長十年七月癸巳、天下諸國人民姓名及郡鄉山川等號有觸諱者皆令改易。

〔古京遺文〕石川朝臣年足墓志

御史大夫正三位兼行神祇伯年足朝臣、當平城宮御宇天皇之世、天平寶字六年歲次壬寅九月丙子朔乙巳、春秋七十有五薨于京宅。以十二月乙巳朔壬申葬于攝津國島上郡白髮鄉酒垂山墓。○中

右墓志文政三年正月攝津國島上郡真上光德寺村民德左衛門鑿其宅後荒神山而獲之。○中倭名類聚抄、島上郡有真上鄉無白髮鄉。按續日本紀延暦四年五月詔曰、臣子之禮必避君諱、比者先帝御名及朕之諱、公私觸犯猶不忍聞、自今以後宜並改避。於是改姓白髮部爲真髮部、山部爲山、然則白髮鄉之爲真上亦係延暦所改。是志在詔前二十四年故猶不避也。○常陸國真壁郡本名白壁郡亦蓋在此時也。

〔常陸風土記〕白壁郡。東筑波郡、南毛野河、西北並新治郡。

〔訂正常陸風土記〕按白壁郡卽今真壁郡也。續日本紀延暦四年詔改姓白髮部爲真髮部、是避光仁